

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税の意味とは

都城市立姫城中学校

三年 宮本 和夏

「税金」みなさんは税金ときいて何を思いますか。私は正直、買い物をする時など「どうしてさらにお金を払わなければいけないのだろう。」と不満に思っていました。きっと多くの人もそう思っていることだろうと思います。しかし、学校で行われた租税教室をきっかけに税について調べてみると税に対する考えがかなり変わりました。そこで私が知って驚いたこと、税についてどう思うようになったのか誰でも分かるように私なりに考えて説明していきたいと思います。

まず、税が何に使われているかです。私の税に対するイメージは「払ったらどこか遠くの何かに役立っている。」という曖昧なものでした。しかし調べてみると「警察署」「信号機」学校の中だと「机」「教科書」など私たちの身近に使われており、さらに言えば私たち小中学生にとって毎日使っているものばかりです。そうは言ってもいまいちピンとこない人もいるかも知れません。国税庁ホームページによると公立学校の児童、生徒一人当たり年間教育費負担額は小学生で約九十二万円、中学生で約百九万円です。つまり一年間で百万円前後の費用と税で賄っているということになります。調べてみると税はいろんな身近なところで使われていて驚きました。

次に私は「税金のない世界」について考えてみました。国税庁によると大人一人当たりの年間税額の平均は六十八万円だそうです。六十八万円を払わなくていいとなると聞こえは良いですが実際はどうでしょう。まず、「警察」や「消防」が機能しなくなります。すると犯罪や火事などは増え、行方不明者も増えるでしょう。そして道路の整備もされなくなり暮らしにくくなります。さらに先程述べた教育費百万円前後は一家庭一家庭が負担することになります。私はそんな世の中、絶対にいやです。

最近、増税や消費税の引き上げなどでなにかと税は「嫌なもの」、「必要ないもの」というイメージを持たれがちですがいざなくなった世界を想像してみると私たちが思っていた生活とはほど遠いものでした。

今回、税について調べてみたことで税についての今までの自分の誤解を解くことができました。今後は消費税などを払う時も「これが国を支える一つのキーなんだ。」と思うと、自然と心地よく払うことができる気がします。

そして何年かしたら、私たちの世代も「所得税」など新たな税を払うことになります。どうせ払うなら気持ちよく払いたいですよね。自分が払う一円一円が国を支えていると思うと自然と誇らしく思えてきます。

私たち中学生でも消費税という形で身近に国に貢献していた「税」。今後は何に役立られているのかしっかりと知り、理解した上で、税を支払うことが、豊かな暮らしを国と共に造り上げていくための私たち国民の義務であり、権利なのではないかと私は考えます。